



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月5日

上場会社名 日本化学産業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4094 URL <http://www.nihonkagakusangyo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳澤英二

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務部長 (氏名) 百瀬 譲

TEL 03-3873-9223

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	4,686	16.1	582	9.7	680	4.2	492	3.2
2020年3月期第1四半期	5,588	9.2	645	18.2	711	16.5	508	14.0

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 1,104百万円 (133.5%) 2020年3月期第1四半期 472百万円 (9.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	24.58	
2020年3月期第1四半期	25.38	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	43,147	37,201	86.2	1,855.41
2020年3月期	41,809	36,398	87.1	1,815.37

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 37,201百万円 2020年3月期 36,398百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		15.00		15.00	30.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		14.00		14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2020年3月期の第2四半期末および期末配当金15円には、普通配当14円に、当社の前身である柳澤有機化学工業所の創業80年記念配当1円が含まれております。

投資者が通期業績を見通す際に有用と思われる情報

2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,800	10.5	900	19.1	1,000	16.1	700	30.4	34.91
通期	19,600	8.9	1,900	20.0	2,100	18.6	1,400	29.2	69.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	20,680,000 株	2020年3月期	20,680,000 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	629,880 株	2020年3月期	632,769 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	20,050,120 株	2020年3月期1Q	20,047,231 株

(注) 期末自己株式数には、「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(役員向け株式交付信託)」が保有する当社株式(2021年3月期第1四半期 33,502株、2020年3月期 33,502株)が含まれております。また、「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(役員向け株式交付信託)」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

なお、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、2020年7月27日付でJTCホールディングス株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社と合併し、株式会社日本カストディ銀行となりました。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]3ページ「1.経営成績等の概況(3)今後の見通し」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2020年3月期 決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 今後の見通し	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)	8
(セグメント情報等)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日~2020年6月30日)におけるわが国経済は、昨年度後半から米中貿易戦争等を主因に海外経済全体が停滞し、回復の兆しが見えない状況が続いておりましたが、2020年に入り、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大(以下、コロナ禍といいます。)により、各国で都市が封鎖される等、経済活動が大幅に減速したことから需要が減退し、輸出、生産が急減しました。また、緊急事態宣言に伴う外出自粛や休業要請のため、個人消費が停滞するとともに入国制限によりインバウンド需要もほぼ消失する等、企業収益を大きく引き下げざるを得ない状況となり、現段階でもコロナ禍収束の目途も立たず、第2波、第3波の感染拡大も懸念され、依然として景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは時差出勤、交替休暇取得、移動の自粛等のコロナ禍防止策を講じ、従業員等の安全を最優先に考えた措置を取るとともに在宅勤務体制の整備も行い、生産活動をはじめとする全ての事業活動に影響を及ぼさないように努めてまいりました。また、更に厳しさを増す事業環境のなか、業績停滞を補い再浮上を図るべく、新製品・新規用途開発品を中心とした販売・生産数量の確保・拡大及び新規ユーザーの開拓に取り組むとともに、コスト・経費の引き下げ、ITを活用した業務の効率化、生産拠点や生産工程の最適化等の生産性向上による価格競争力の向上と低コスト体質の強化に引き続き取り組んでまいりました。

しかしながら、コロナ禍による世界経済の減速継続に加え、国内における緊急事態宣言により、当社及び取引先の営業・生産活動が制約を受けたことを主因に、当第1四半期連結累計期間の当社グループ全体の売上高は前年同四半期比901百万円16.1%減の4,686百万円、営業利益は前年同四半期比62百万円9.7%減の582百万円、経常利益は前年同四半期比30百万円4.2%減の680百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比16百万円3.2%減の492百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりとなります。

[薬品事業]

主力の薬品事業は、引き続き厳しい事業環境下、営業活動を自粛したことも加わるなか、効率的な生産プロセスの構築及びリサイクル原料の活用拡大等により利益の確保を目標としました。しかしながら、二次電池用正極材受託加工の安定供給はほぼ達成できたものの、他製品群については、コロナ禍の継続等により、国内、海外とも情報技術関連及び自動車関連を中心に全般的に需要が回復せず、主要塩類の非鉄金属の市場価格の回復が遅れ、連動する販売単価も低下したことから、売上高は前年同四半期比825百万円17.7%減の3,833百万円となりました。

利益面では、コスト・経費引き下げ及び一部生産性向上は実現できたものの、国内の売上高減少に加え、主力製品の採算性が低下したこと等により、営業利益は前年同四半期比29百万円5.5%減の507百万円となりました。

[建材事業]

建材事業は、前期まで業績は堅調に推移しておりましたが、業績に大きく影響する新設住宅着工戸数は依然として低調に推移し、さらにコロナ禍で住宅着工の遅れや当社及び取引先の営業活動が制約を受けたこと等により、主力製品の防火通気見切り縁を含む住宅建材が低調に推移し、売上高は前年同四半期比76百万円8.2%減の853百万円、営業利益も前年同四半期比38百万円14.2%減の235百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結累計期間における流動資産は、売上高減少により売上債権が減少したものの、現金及び預金が増加したことにより、前連結会計年度末比448百万円増の25,126百万円となりました。一方、固定資産は、有形固定資産が機械及び装置等の償却が進んだことから前連結会計年度末比237百万円減の7,331百万円となりましたが、保有株式の株価が回復したことから投資その他の資産が前連結会計年度末比1,136百万円増の10,492百万円となったことにより、前連結会計年度末比890百万円増の18,021百万円となりました。この結果、総資産は前連結会計年度末比1,338

百万円増の 43,147 百万円となりました。一方、流動負債は、仕入債務が減少したものの、短期借入金が増加したことにより、前連結会計年度末比 183 百万円増の 4,709 百万円となり、固定負債も有価証券評価差額金増加に伴う繰延税金負債の増加により前連結会計年度末比 351 百万円増の 1,236 百万円となったことにより、負債合計では前連結会計年度末比 535 百万円増の 5,946 百万円となりました。また、純資産は前連結会計年度末比 802 百万円増の 37,201 百万円となり、その結果、自己資本比率は前連結会計年度末の 87.1%から 86.2%となりました。

(3) 今後の見通し

当社を取り巻く事業環境はコロナ禍の影響が継続しており、先行きは予断を許さない状況となっております。しかしながら、現在までのところ概ね当初業績予想の範囲内で推移していることから、第2四半期連結累計期間・通期ともに2020年5月13日公表の予想から変更いたしておりません。尚、今後、業績予想の修正が生じる場合は速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,152,897	15,078,615
受取手形及び売掛金	6,241,602	5,810,151
商品及び製品	1,328,387	1,654,882
仕掛品	1,052,888	839,055
原材料及び貯蔵品	1,802,931	1,685,195
その他	100,838	59,902
貸倒引当金	△1,440	△1,280
流動資産合計	24,678,105	25,126,523
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	2,269,052	2,131,148
その他(純額)	5,299,675	5,200,257
有形固定資産合計	7,568,728	7,331,406
無形固定資産		
	206,481	197,617
投資その他の資産		
投資有価証券	5,889,735	7,029,202
繰延税金資産	1,241	1,167
その他	3,466,550	3,463,599
貸倒引当金	△1,570	△1,570
投資その他の資産合計	9,355,957	10,492,399
固定資産合計	17,131,166	18,021,423
資産合計	41,809,272	43,147,946
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,383,018	2,305,232
短期借入金	391,000	808,000
未払法人税等	398,032	198,922
賞与引当金	390,000	172,500
役員賞与引当金	30,000	7,500
その他	933,869	1,217,703
流動負債合計	4,525,920	4,709,858
固定負債		
繰延税金負債	492,314	839,807
退職給付に係る負債	308,526	308,230
役員株式給付引当金	33,584	38,786
資産除去債務	600	600
その他	49,977	49,527
固定負債合計	885,002	1,236,952
負債合計	5,410,923	5,946,810

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,034,000	1,034,000
資本剰余金	1,029,965	1,029,965
利益剰余金	33,092,963	33,284,448
自己株式	△362,294	△362,294
株主資本合計	34,794,634	34,986,120
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,290,188	2,080,906
為替換算調整勘定	406,587	216,734
退職給付に係る調整累計額	△93,061	△82,625
その他の包括利益累計額合計	1,603,714	2,215,015
純資産合計	36,398,349	37,201,135
負債純資産合計	41,809,272	43,147,946

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	5,588,525	4,686,582
売上原価	4,275,292	3,465,768
売上総利益	1,313,233	1,220,814
販売費及び一般管理費	667,721	638,170
営業利益	645,511	582,643
営業外収益		
受取利息	3,621	2,300
受取配当金	58,223	64,798
不動産賃貸料	17,591	18,362
為替差益	-	15,554
その他	7,531	10,198
営業外収益合計	86,968	111,213
営業外費用		
支払利息	2,309	2,066
売上割引	1,843	1,595
賃貸収入原価	10,228	9,248
為替差損	7,063	-
その他	16	43
営業外費用合計	21,461	12,954
経常利益	711,018	680,902
特別損失		
固定資産除却損	11	6,717
特別損失合計	11	6,717
税金等調整前四半期純利益	711,007	674,184
法人税等	202,181	181,444
四半期純利益	508,825	492,739
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	508,825	492,739

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益	508,825	492,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△84,219	790,718
為替換算調整勘定	44,259	△189,853
退職給付に係る調整額	4,001	10,436
その他の包括利益合計	△35,958	611,301
四半期包括利益	472,867	1,104,040
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	472,867	1,104,040
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	薬品事業	建材事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	4,658,875	929,649	5,588,525	—	5,588,525
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,658,875	929,649	5,588,525	—	5,588,525
セグメント利益	536,912	274,372	811,284	△165,773	645,511

(注) 1. セグメント利益の調整額△165,773千円は各セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	薬品事業	建材事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,833,522	853,059	4,686,582	—	4,686,582
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,833,522	853,059	4,686,582	—	4,686,582
セグメント利益	507,319	235,415	742,734	△160,091	582,643

(注) 1. セグメント利益の調整額△160,091千円は各セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。